

番組審議会報告

2003年6月開催 番組審議会報告

FMヨコハマでは下記のとおり、番組審議会を開催いたしました。

記

開催年月日	2003年6月19日（木）15：00～15：55	
出席者	番組審議委員	木下委員長、中村副委員長、近澤委員、野並委員、村山委員、山口委員、 （敬称略） 呂委員
	FMヨコハマ	京谷泰弘 代表取締役副社長、鈴木博 専務取締役、 水野隆司 常務取締役、林正光 常務取締役、笠井哲哉 取締役、 兒玉智彦 編成制作部部長、筒井 理 編成部員

議題 番組『Reverb』について

審議の概要

当番組は、当初は27時からの30分番組であったが、深夜帯に関わらず人気が出てきたことにより、2時間繰り上げて、25時スタートとした。学生や深夜労働のタクシードライバー、運送業者などをリスナー対象としている。

番組内容は、ラウンジに音楽好きの仲間が集まり、フランクでハイテンションなしゃべりで、「元気」を与えてくれるよう、また、DJの3人が帝王、相棒、補欠という役割りで、そこにリスナー自身もメンバーの一員として参加させる趣向で、ひとつの空間を構成する設定にしている。

楽曲については、HIP HOP、R&B、SOUL、レゲエなどのクラブ系ミュージックを中心に、J-POPS、ボサノバ等オールジャンルからも選曲を行なっている。

そして、曜日別にテーマを設定したコーナーでは、そのテーマにそった楽曲やトークで構成している。トークについては、リスナーの目線に合わせた身近なものを取り上げ、また、ゲストについても、番組に遊びにきた仲間ということで、リラックスした状況の中で、普段聞けない一面を引き出すなどして、リスナーと番組との距離を縮める効果を出している。

深夜番組にも関わらず、クラブ系ミュージック番組として注目されている番組である。等々説明しました。

以上、概要説明に次いで、6月5日放送の同録ダイジェストテープを試聴後、討議に入りました。

まず、各委員より、次の感想、意見等をもらいました。

- 雰囲気やノリはいいが、話の内容が記憶に残らない。この時間帯からすれば、これでいいのかもしれないが。
- 世代間の違いもあるが、会話の部分で耳障りな個所がある。また、笑いが多く違和感がある。
- 流れるように番組が進んでいくので、耳にすーっと入っていけるところはある。
- リスナー参加という趣向だが、反面、自分たちだけで愉しんでいるきらいがある。
- 仲間感覚なところはわかるが、何を目的に集まっているのか、といったところが、今ひとつ見えない。
- しゃべり言葉なので、聞き取りにくいところがある。
- 出演者が役割り、やるべきことがはっきりしていてわかりやすい。
- 選曲については、気を引く曲もあり、悪くない。

- 年齢が上の層のリスナーも楽しめる楽曲を選曲しており、幅広い年齢層に対応できる番組づくりをしている。
- FMヨコハマの他の番組であまり紹介されていない、これからの成長が楽しみな独自のゲストを出しているのはいい。
- 番組内容で、横浜、FMヨコハマらしさを失ってはならない。
- 出演者全員が横浜在住ということで、地元の話も適宜トークに盛り込まれており、地元リスナーを惹き付ける工夫がみられる。
- いつも説教じみたものばかりでもダメだが、DJの生き様などから教訓として伝えられるものを散りばめれば、番組として、引き立つものが出てくる。

等々の感想、意見が出されました。

その他の参考事項：なし

以上